

# 日本脳炎のワクチン接種を忘れずに!

日本脳炎ウイルスは「蚊」が媒介して豚に感染します。母豚が免疫を持たず感染すると、白子や黒子、神経症状を示す子豚を娩出等、異常産を引き起こします。通常、蚊の活動時期の夏から秋にかけてが好発時期ですが、冬季にも繁殖障害が起きた事例があります。

## 異常産事例



白子



黒子

令和5年10月から11月に採血した管内20農場（豊橋市13農場、豊川市3農場、田原市4農場）において、日本脳炎に対する抗体検査を実施したところ、野外感染を疑う高抗体価の母豚が80%の農場で確認されました。

ワクチン未接種の肥育豚においても60%の農場で陽性が確認されており、日本脳炎ウイルスは身近に存在します。

	肥育豚	候補豚	母豚
陽性率(農場数)	60%	16%	80%
陽性率(頭数)	30%	8%	31%

※候補豚と母豚は野外感染を疑う抗体価 $\geq$  640を計上

## 繁殖障害を防ぐために、母豚へのワクチン接種を種付け前に確実に実施してください。

### 季節一斉接種の場合

4~5月

生ワクチン  
(3種混合等)

+

1か月後

不活化ワクチン  
(日本脳炎単味)

又は

生ワクチン  
(3種混合等)

又は

### 分娩毎の場合

分娩後~離乳時まで

生ワクチン  
(3種混合等)

## 候補豚も初回種付け前2回の接種を忘れずに!

種付け2か月前

生ワクチン  
(3種混合等)

+

種付け1か月前

不活化ワクチン  
(日本脳炎単味)

又は

生ワクチン  
(3種混合等)